

令和元年度 事業報告

(2019年4月1日～2020年3月31日)

本年度における会員現況と主な事業内容を以下項目別に報告する。

1. 会員状況

会員種別	2019年度			参 考	
	2019. 4. 1 現在数 (A)	2020. 3. 31 現在数 (B)	年度内の増減 (B-A)	2019. 3. 31 現在数 (C)	前年度末 との対比 (B-C)
名誉会員	18	18	0	18	0
終身会員	188	180	△8	171	9
正 会 員	2,887	2,812	△75	2,883	△71
学生会員	862	858	△4	871	△13
(合計)	3,955	3,868	△87	3,943	△75
賛助会員	224社 (302口)	230社 (312口)	6社 (10口)	223社 (301口)	7社 (11口)
特殊会員	74社 (100口)	70社 (89口)	△4社 (△11口)	73社 (99口)	△3社 (△10口)

2. 定款・規則等の制定・改正

(1) 年齢による正会員会費の特例制度 (2020. 3. 16)

3. 機関誌の刊行

(1) 日本音響学会誌
本期間は毎月1日(1号は12月25日)を発行日とし、次の12冊を刊行した。

75巻4号～76巻3号(2019年4月～2020年3月)

巻 号	75巻									76巻			計	
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
本文ページ	76	66	48	64	66	58	46	56	42	78	54	68	722	
主 な 論 文 ・ 記 事	巻頭言		2							3			5	
	音叉	2			2			2					6	
	追悼文										2		2	
	論文			7 (1)	10 (1)	6 (1)	8 (1)	9 (1)					10 (1)	50 (6)
	技術報告	7 (1)		6 (1)										13 (2)
	研究速報		7 (2)							4 (1)	4 (1)	4 (1)		19 (5)
	技術プラザ													
	解説(小特集を含む)	63 (1)	49 (8)	29 (4)	42 (7)	28 (4)	41 (7)	30 (4)	45 (7)	30 (4)	47 (7)	32 (4)	50 (7)	486 (64)
	会議報告 (シンポジウム/活動報告)					8 (1)			2 (1)			2 (1)		12 (3)
	連載企画		2					2						4

文 記 事	特別講演					5						6		11	
	研究発表会報告					1						1		2	
	選奨記事・紹介記事					14								14	
	研究会発表論文一覧														
	書評											1		1	
	博士論文紹介			1		2		1		1				5	
	コーヒーブレイク	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
	75巻総目次										4				4
	AST目次			1		1		1		2		6		1	12
	AST abstract			2		2		2		2		13		2	23
	学会記事等	1	1	1	2	1	2		1	1	2	3	2	2	17
編集後記	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	
会告	9	25	27	13	17	69	23	27	21	14	61	25	331		
広告	9	9	9	11	9	11	9	9	9	9	9	9	11	114	
発行部数	4300	4300	4300	4300	4300	4300	4300	4300	4300	4300	4300	4300	4300	51600	
小特集タイトル	※1	※2		※3		※4		※5		※6		※7			

注 1) 欄中の () 内数値は編数。

2) 会告の内容は、研究会開催案内、音響関係国内並びに国際会議、その他周知記事である。

※1 道路交通騒音の予測モデル

- 2 建物における体感振動
- 3 話す・歌う・奏でる音の合成技術
- 4 音環境理解の近年の動向：音響イベント分析及び音響シーン分析
- 5 建築分野における音・振動に関する測定と評価の現状と今後の展望
- 6 Virtual Reality (VR) に関連したマルチモーダル技術・研究
- 7 インパルス応答を「測る」「聴く」「創る」

(2) 英文論文誌 Acoustical Science and Technology

本期間は、2019年5月、7月、9月、11月、2020年1月、3月の各1日を発行日とし次の6冊をオンラインジャーナルとして刊行した。

なお、AST誌への投稿システムをJSTの協力により、“ScholarOne”システムを利用した。

Vol. 40 No. 3～Vol. 41 No. 2 (2019年5月～2020年3月)

Vol.		Vol. 40				Vol. 41		計
No.		3	4	5	6	1	2	
本文ページ		77	60	74	53	456	71	791
主 な 論 文 ・ 記 事	Foreword					1		1
	Paper	39 (4)	26 (3)	63 (6)	15 (2)		41 (4)	184 (19)
	Technical Report		14 (2)		17 (2)			31 (4)
	Acoustical Letter	12 (3)	16 (5)	8 (2)	14 (4)	137 (46)	12 (3)	199 (63)
	Invited Tutorial					26 (3)		26 (3)
	Invited Review	23 (3)				132 (20)	15 (2)	170 (25)
	Invited Paper					158 (24)		158 (24)
	和文誌英文目次	2	2	2	1	1	2	10
	和文誌論文等内容梗概	1	2	1	1	1	1	7
	Vol. 40 総目次					5		5
特集号タイトル						※1		

注) 欄中の () 内数値は編数。

※1 The Commemoration Universal Acoustical Communication Month 2018 (UAC2018)

- (3) 科学技術振興機構 (JST) が主催する「科学技術情報発信・流通総合システム」(J-STAGE)において、日本音響学会誌及び Acoustical Science and Technology 誌 (AST 誌) を公開した。なお、日本音響学会誌の J-STAGE での公開は 6 か月後としている。

4. 研究発表会の開催

- (1) 春季研究発表会は、2019 年 3 月 5 日、6 日、7 日の 3 日間、電気通信大学を会場として開催した。参加者実数は、1,400 名であった。

申込件数は 567 件、このうち、スペシャルセッションは 10 テーマ、「国際セッション」、「アコースティックイメージング×音バリアフリー」、「音声における多様な情報の認識と合成」、「計測と音楽音響」、「乳幼児の聞こえと保育施設における音環境」、「道路交通騒音の予測方法“ASJ RTN-Model 2018”」、「生物音響：基礎から応用へ」、「スポーツと音 その 3」、「リアリティを演出する音のデザイン」、「高臨場感オーディオとその応用－高臨場感コミュニケーション」で実施した。

学生並びに新たに研究発表会に参加した方を対象とするビギナーズセミナーを開催した。なお、賛助会員と学生との交流の場として利用いただくことを目的とした交流会を開催し、12 社が参加した。また、賛助会員のポスター展示を実施し、8 社が展示を行った。

- (2) 秋季研究発表会は、2019 年 9 月 4 日、5 日、6 日の 3 日間、立命館大学びわこ・くさつキャンパスを会場として開催した。参加者実数は、1,042 名であった。

申込件数は 530 件、このうち、スペシャルセッションは 10 テーマ、「音声情報技術の新たな応用に向けて」、「注意研究の基礎と応用・臨床」、「光技術と音響計測」、「非線形音響技術の最近の動向」、「高臨場感オーディオと人－高臨場と聴感」、「電動化・自動化時代の自動車の音デザイン」、「高齢難聴と音デザイン」、「人の音声コミュニケーション－その科学と支援技術－」、「オープンキャンパス・オープンラボにおける音響展示」、「スポーツと音 その 4」で実施した。

学生並びに新たに研究発表会に参加した方を対象とするビギナーズセミナーを開催した。また、賛助会員のポスター展示を実施し、7 社が展示を行った。

- (3) 春季並びに秋季の発表分野、講演件数及び特別講演は次表のとおりである。

分野別		春季	秋季
講演 件 数	音響教育	8	6
	超音波/水中音響	67	50
	熱音響技術	4	12
	超音波/アコースティックイメージング		
	電気音響	95	77
	電気音響/聴覚(共催)	48	46
	騒音・振動	22	30
	建築音響	26	36
	アコースティックイメージング	13	8
	聴覚/聴覚・音声	11	25
	音声コミュニケーション	12	22
	聴覚・音声/音声コミュニケーション	26	
	音声 A	59	43
	音声 B	62	56
	音楽音響	16	21
	音支援 (音バリアフリー)	5	4
音のデザイン	8	8	
スペシャルセッション (春季 10 テーマ)	85	-	

	スペシャルセッション (秋季10テーマ)	-	86
	計	567	530

特別講演	演 題	オノマトペを活用して人の心に訴求する	タバタトレーニングーエネルギー論的に最も有効なトレーニング方法ー
	講 師	電気通信大学教授 坂本 真樹 氏	立命館大学教授, 田畑 泉 氏

(4) 技術動向レビューの実施

2019年春季は、2019年3月5日に「実例から俯瞰する近年の建築音響学の進展とその応用」をテーマとして実施した。2019年秋季は、2019年9月4日に「非接触音響技術に関する最近の動向」をテーマとして実施した。

(5) 研究発表会ポータルサイト

広報・電子化委員会（荒木 章子委員長）で、研究発表会ポータルサイトを作成した。ポータルサイトでは、プログラムのほか、アクセス時刻における各会場での進行状況、各講演の要旨、会場への交通案内等を表示した。また、学会ホームページへの情報掲載のルールを作成し、周知した。

5. 研究会の開催

(1) 本年度に実施した各研究会の活動概要は次表のとおりである。

研究会名	委員長 (敬称略)	開催回数	発表件数	備考
超音波	近藤 淳	10	115	電気音響、アコースティックイメージング研究会との合同開催の分を含む
騒音・振動	土田 義郎	10	61	アコースティックイメージング、建築音響研究会との合同開催分を含む
電気音響	古家 賢一	7	191	聴覚、建築音響、超音波、音声研究会、音響教育委員会との合同開催の分を含む
音 声	河井 恒	7	129	電気音響研究会との合同開催の分を含む
聴 覚	小澤 賢司	8	121	電気音響、建築音響研究会、音響教育委員会との合同開催の分を含む
建築音響	佐久間 哲哉	10	62	電気音響、聴覚、騒音・振動研究会、音響教育委員会との合同開催の分を含む
音楽音響	亀川 徹	9	83	高臨場感オーディオ調査研究委員会との合同開催分を含む
アコースティックイメージング	及川 靖広	5	44	超音波研究会、騒音・振動研究会との合同開催の分を含む
音響教育委員会	西村 明	1	22	電気音響、聴覚、建築音響研究会との合同開催の分を含む
高臨場感オーディオ	安藤 彰男	2	24	音楽音響との合同開催分を含む
合 計		69	852	

(2) 騒音・振動、聴覚、建築音響及び音楽音響研究会資料の年間購読の請求事務は学会事務局で代行した。

6. 国際交流

(1) 国際会議の開催・準備等

国際音響学会が定めた International Year of Sound 2020 (IYS2020)に協力し、IYS2020 対応委員会（安藤彰男委員長）を組織し、関連イベントについて検討した。

- (2) 当学会が加盟団体となっている国際音響学会(ICA), 国際騒音制御工学会(I-INCE)の活動に協力した。国際音響学会(ICA)の理事として, 安藤彰男氏(富山大)が選出された。
- (3) 西太平洋地区音響学会(WESPAC)に協力した。
- (4) Week of Sound の開催
UNESCO 決議「The Importance of Sound in Today's World」に基づいて, 8月20日~25日の間, Week of Sound 関連イベントを実施した。イベントは, 「手作りで音を楽しもう」(主催: 日本機械学会, 共催: 日本音響学会), 「高臨場感オーディオセミナー」(主催: 日本音響学会高臨場感オーディオ調査研究委員会, 共催: 超臨場感コミュニケーション産学官フォーラム(URCF), AES 日本支部, 日本オーディオ協会), 「音の科学教室」(主催: 国立科学博物館, 共催: 日本音響学会音響教育委員会)で構成した。
- (5) (公社)日本騒音制御工学会が実施する INTER-NOISE 2023 の招致活動に協力した。

7. 音響規格の調査・作成

- (1) 当学会で原案作成を行った日本工業規格(JIS)に関して5年ごとの見直し作業を行った。
- (2) 当学会が作成した JIS Z 8731 について, 改正原案作成委員会(橘秀樹委員長)において原案を作成し, 日本規格協会に提出した。
- (3) 音響に関する国際規格(ISO/TC 43, 同/SC1, 同/SC2, 同/SC3 及び IEC/TC29 関係)の審議を日本規格協会から委託され, ISO/TC43 国内委員会(鈴木 陽一委員長), IEC/TC29 国内委員会(堀内 竜三委員長)において審議し, 結果をとりまとめて報告した。

8. 調査研究委員会の活動

- (1) 道路交通騒音予測手法の調査研究
(株)高速道路総合技術研究所との共同研究により, 「道路交通騒音の予測精度向上に関する研究」を実施した。道路交通騒音調査研究委員会(坂本 慎一委員長)が作業を実施した。
- (2) 音バリアフリーに関する調査研究
音バリアフリー調査研究委員会(中村 健太郎委員長)において, 聴覚障害者のための会話システムの研究, デバイスの研究・開発・実用化及び普及を目的とした活動を行った。
- (3) 熱音響技術に関する調査研究
熱音響技術調査研究委員会(渡辺 好章委員長)において, 既存のエネルギー変換システムが抱える廃熱の利用を目的とする調査研究を実施した。
- (4) 音のデザインに関する調査研究
音のデザイン調査研究委員会(高田 正幸委員長)において, 製品音, サイン音, サウンドスケープ, 音環境等の音のデザインについて, 包括的に調査研究を行い, 音のデザインの必要性, 可能性, 将来性を発信することを目的とする活動を実施した。
- (5) 非常用屋外拡声システムに関する調査研究
非常用屋外拡声システムに関する技術調査研究委員会(佐藤 洋委員長)において, 伝達用屋外拡声システムの設計・性能等に関する調査研究を行った。
- (6) 軟骨伝導に関する調査研究
軟骨伝導の基本メカニズムとその応用技術等について検討する軟骨伝導調査研究委員会(細井 裕司委員長)において, 軟骨伝導応用機器の普及, 軟骨伝導音の校正法の規定等に関する調査研究を行った。
- (7) 生物音響に関する調査研究
生物音響に関する研究の進歩と研究母体の拡大を図り, 生物音響学分野の研究成果の発表, 情報交換, 連絡連携を目的とする生物音響調査研究委員会(力丸 裕委員長)において, 調査研究を行った。

- (8) 音声コミュニケーションに関する調査研究
音声コミュニケーション技術に関連のある研究分野の研究者が活発に議論できる環境の提供を目的とする音声コミュニケーション調査研究委員会（荒井 隆行委員長）において、調査研究を行った。
- (9) 高臨場感オーディオに関する調査研究
高臨場感オーディオに関連する研究分野において、横断的な議論を行う機会を提供し、当該分野の更なる発展を目的とする高臨場感オーディオ調査研究委員会（安藤 彰男委員長）を設置し、調査研究を行った。
- (10) スポーツ音響に関する調査研究
音響学とスポーツ競技と音のかかわりやその競技場の音環境に関し、関連する分野の研究所が議論できる場を設けることを目的とするスポーツ音響調査研究委員会（大鶴 徹委員長）を設置し、調査研究を行った。

9. 学術委員会関連委員会の活動

- (1) 音響教育に関する調査研究
音響教育委員会（西村 明委員長）において音響学の教育と教育研究及びその普及を主たる目的として委員会活動を行った。なお、主な活動は、2019年7月27日(土)、28日(日)、科学技術館において、「青少年のための科学の祭典」に、2019年8月25日(日)、国立科学博物館において、「音の科学教室」に出展した。

10. 選 奨

- (1) 功 績 賞
音響に関する学術又は関連事業に対し、特別の功績があると認められる方に贈られるもので、第43回功績賞受賞者は、岩宮 眞一郎、匂坂 芳典、広瀬 啓吉の3氏に決定した。
- (2) 日本音響学会論文賞
音響学に関し学術上及び技術上貢献するところが大きい研究業績を本学会誌に発表した方に贈られるもので、学会誌74巻1号～12号、75巻1号～12号並びにAST誌Vol. 39 No. 1～ No. 6, Vol. 40 No. 1～ No. 6に掲載された論文中から優秀な論文を選定した。
- 第60回日本音響学会論文賞受賞論文（敬称略）
- ア. 日本音響学会論文賞佐藤賞
- 「ゲート付き畳み込みリカレントニューラルネットワークを用いたカラスの鳴き声の自動検出」
日本音響学会誌75巻10号(2019)
井本 桂右（立命館大学）、塚原 直樹（CrowLab/宇都宮大学）、永田 健（CrowLab）、末田 航（National University of Singapore）
- イ. 日本音響学会論文賞古井賞
- 「Extension of the frequency range of normal-incidence sound absorption coefficient measurement in impedance tube using four or eight microphones」
AST誌39巻5号(2018)
眞田 明、岩田 和大（岡山県工業技術センター）、中川 博（日本音響エンジニアリング(株)）
- (3) 独創研究奨励賞 板倉記念
音響学に関する独創的な研究を行った若手会員の方に贈られるもので、会員から推薦のあった候補者から優秀な者を選定した。

第15回独創研究奨励賞 板倉記念 受賞者（敬称略）

- 郡山 知樹（東京大学）
研究名：「深層ガウス過程に基づく統計的音声合成」
- 中鹿 亘（電気通信大学）
研究名：「拡張ボルツマンマシンに基づく音声合成に関する研究」

(4) 栗屋 潔学術奨励賞

有為と認められる新進の研究・技術者の方に贈られるもので、2019年春季研究発表会並びに秋季研究発表会の講演者のうちの本賞受賞対象者から優秀な者を選定した。2019年春季研究発表会の講演者を対象とした栗屋潔学術奨励賞は2019年春季研究発表会選奨会場(2019年9月5日)で本賞を贈呈した。

第46回栗屋 潔学術奨励賞受賞者(敬称略/2019年春季研究発表会, 3名)

○伊藤 一陽(千葉大学)

「肝臓内の脂肪酸組成に着目したびまん性肝疾患の音響的評価」

○上江洲 安史(日本電信電話(株))

「変形聴覚フィードバック下での発話におけるマスクングノイズの影響の検討」

○大浦 圭一郎(名古屋工業大学)

「周期・非周期信号から駆動するディープニューラルネットワークに基づく音声ボコーダ」

第47回栗屋 潔学術奨励賞受賞者(敬称略/2019年秋季研究発表会, 4名)

○井上 昂治(京都大学)

「自律型アンドロイドERICAによる傾聴対話の評価」

○田中 宏(日本電信電話(株))

「WaveCycleGAN2: 高品質音声合成のための時間領域ニューラルポストフィルタ」

○谷川 理佐子(早稲田大学)

「Guided-spatio-temporal filterを用いた光学的可視化音場と流れの分離」

○村上 泰樹(大島商船高等専門学校)

「骨導音と気導音に対する蝸牛モデルの入出力特性の比較」

(5) 学生優秀発表賞

春季又は秋季研究発表会において優秀な発表を行った学生会員に贈られるもので、2019年春季研究発表会並びに秋季研究発表会の講演者のうちの本賞受賞対象者から優秀な者を選定した。2019年春季研究発表会の講演者を対象とした学生優秀発表賞は2019年秋季研究発表会選奨会場(2019年9月5日)で本賞を贈呈した。

第19回学生優秀発表賞受賞者(敬称略/2019年春季研究発表会, 20名)

荒川 陸(東京大学), 岡田 慎太郎(名古屋大学), 高島 悠樹(神戸大学), 塚本 伸(電気通信大学), 川村 美帆(北陸先端科学技術大学院大学), Monasterolo Florent(東北大学), 泉 太貴(大分大学), 大上 佳範(立命館大学), 久保 優騎(東京大学), 藤井 敏弘(立命館大学), 松田 遼(京都大学), 桶本 まどか(八戸工業大学), 米村 美紀(東京大学), 星野 嗣人(大分大学), 大塚 知弘(同志社大学), 大村 眞朗(千葉大学), Leslie Vanessa Bustamante Diaz(同志社大学), 溝口 岳(千葉大学), 片岡 寛子(九州大学), 皆本 拓哉(立命館大学)

第20回学生優秀発表賞受賞者(敬称略/2019年秋季研究発表会, 24名)

安藤慎太郎(東京大学), 松浦 孝平(京都大学), 松本 剣斗(岡山大学), 水落 智(東北大学), 安田 裕介(総合研究大学院大学), 石坂 勇毅(千葉大学), 寺岡 諒(東北大学), 伊東 勇登(東京大学), 耿 毓庭(立命館大学), 近藤 樹(東京大学), 砺波 紀之(立命館大学), 宮岡 洋平(東京工業大学), 大木 大夢(早稲田大学), 大谷 知光(神奈川大学), 劉 金雨(東京大学), 水口木綿花(同志社大学), 茂澄 倫也(富山大学), 渡邊 将俊(山形大学), 山田 健太(日本大学), 松田 明里(名古屋文理大学), 古屋 孝基(豊橋技術科学大学), 酒井 紫帆(立命館大学), 松本 拓磨(立命館大学), 角崎 雄太(富山大学)

(6) 学会活動貢献賞

本学会活動の活性化に多大な貢献があった若手の正会員又は学生会員を顕彰する目的で贈られるもので、今年度は次の7名を選定した。

○池田 雄介(東京電機大学) [アコースティックイメージング研究委員会の幹事としての貢献に対して]

○木谷 俊介(北陸先端科学技術大学院大学) [聴覚研究委員会の幹事としての貢献に対して]

- 小森 智康(日本放送協会) [音バリアフリー調査研究委員会の幹事としての貢献に対して]
- 白勢 彩子(東京学芸大学) [音声コミュニケーション調査研究委員会の幹事としての貢献に対して]
- 武岡 成人(静岡理工科大学) [電気音響研究委員会の副委員長・幹事・幹事補佐の貢献に対して]
- 土屋 健伸(神奈川大学) [超音波研究委員会の幹事・幹事補佐としての貢献に対して]
- 西宮 康治朗(青山学院大学) [音楽音響研究委員会の幹事・幹事補佐としての貢献に対して]

1 1. 講習会、講演会及びセミナーの開催

(1) 講習会 (敬称略)

事業委員会 (西村 明委員長) が今年度を実施した講習会及び技術セミナーは以下のとおりである。

ア. 「体験して学ぶ！スマホアプリ開発とサウンド処理入門」(第 166 回技術講習会)

期 日：2019 年 6 月 3 日～4 日 会場：全国家電会館
 講 師：坂本真一 ((株)オトデザイナーズ), 古晒貴光 ((株)アプサ)
 田中 勉 ((株)アローズネクスト)
 受講者数：10 名

イ. 「デジタル信号処理の基礎と最近のトピックス」(第 167 回技術講習会)

期 日：2019 年 6 月 25 日～26 日 会場：早稲田大学西早稲田キャンパス
 講 師：及川靖広 (早稲田大学)
 受講者数：18 名

ウ. 「わかる・役立つ！音声分析ソフト Praat による実習」(第 168 回技術講習会)

期 日：2019 年 9 月 12 日～13 日 会場：全国家電会館
 講 師：北原真冬 (上智大学), 田嶋圭一 (法政大学), 田中邦佳 (法政大学)
 受講者数：16 名

エ. 「研究・記録のための資料音の録音」(第 169 回技術講習会)

期 日：2019 年 10 月 31 日 会場：全国家電会館
 講 師：西村 明(東京情報大学)
 受講者数：28 名

オ. 「すっきり！わかる！音声言語処理と深層学習の最新知識」(第 172 回技術講習会)

期 日：2019 年 11 月 22 日 会場：全国家電会館
 講 師：小林彰夫(筑波技術大学), 小早川健(NHK 放送技術研究所)
 受講者数：24 名

カ. 「新しい道路交通騒音の予測モデル ASJ RTN-Model 2018」(第 21 回音響技術セミナー) (東京会場)

期 日；2019 年 10 月 31 日 会場；東京大学生産技術研究所
 講 師；坂本慎一 (東京大学), 岡田恭明 (名城大学),
 福島昭則 (ニューズ環境設計), 松本敏雄 (小林理学研究所),
 穴井 謙 (福岡大学)

受講者数；83 名

(大阪会場)

期 日；2019 年 11 月 7 日 会場；エル・おおさか (大阪府立労働センター)
 講 師；坂本慎一 (東京大学), 岡田恭明 (名城大学),
 福島昭則 (ニューズ環境設計), 松本敏雄 (小林理学研究所),
 穴井 謙 (福岡大学)

受講者数；49 名

(2) サマーセミナー (敬称略)

ア. 「音響学の基礎と最近のトピックス」(第 21 回サマーセミナー)

期 日：2019 年 9 月 23 日～25 日 会場：長野県白馬・シエラリゾート白馬

講師：安藤彰男（富山大学），石川憲治（NTT），伊藤彰則（東北大学），
及川靖広（早稲田大学），大川茂樹（千葉工業大学），坂本慎一（東京大学），
中村健太郎（東京工業大学），矢田部浩平（早稲田大学）
受講者数：47名

(3) ビギナーズセミナー

活性化・若手育成委員会（峯松 信明委員長）で初学者を対象にビギナーズセミナーを開催した。2019年春季研究発表会では「論文執筆は怖くないー学術論文採録への挑戦ー」をテーマとして、2019年秋季研究発表会では「空間音響ことはじめ」をテーマとして実施した。

1 2. 出版事業

(1) 出版委員会（大川 茂樹委員長）において、音響テクノロジーシリーズ、音響入門シリーズ、音響サイエンスシリーズ、各シリーズの主旨等について整理確認を行った。

(2) 出版委員会に属する3つのシリーズ編集委員会、音響テクノロジーシリーズ編集委員会（飯田一博委員長）、音響入門シリーズ編集委員会（大川茂樹委員長）、音響サイエンスシリーズ編集委員会（蘆原 郁委員長）において、それぞれ企画内容について審議し、出版した。なお、2019年度の発行状況は以下の通りである。

ア. 音響テクノロジーシリーズ

- ・弾性表面波・圧電振動型センサ（音響テクノロジーシリーズ23）（2019/09/02 発行）

(3) 音響学講座編集委員会（安藤彰男委員長）において、それぞれの巻について、編集作業を進めた。なお、全10巻のうち、次の2巻を刊行した。

- ・電気音響（音響学講座2）（2020/03/23 発行）
- ・建築音響（音響学講座3）（2019/12/11 発行）

(4) 音響用語辞典編集委員会（鈴木陽一委員長）において、用語の選定作業を行い、編集作業を進めた。

1 3. 学会電子化推進に関する活動

広報・電子化委員会（荒木 章子委員長）において、Web、メーリングリスト、Facebook及び研究発表会会場における広報活動等、各種会員サービスを行った。なお、学会ホームページの全面的な刷新作業を実施し、新たなドメインへの移行作業を終了した。

1 4. 学会活性化、若手育成に関する活動

活性化・若手育成委員会（峯松 信明委員長）において、サマーセミナーの実施（サマーセミナー実行委員会）、ビギナーズセミナーの開催、学生・若手フォーラムの活性化を図る活動を行った。なお、学生・若手フォーラムでは、学生研究交流会、学生ランチミーティングを実施した。

1 5. 財務に関する活動

(1) 財務委員会（安藤 彰男委員長，亀川 徹（会勢拡大担当），廣江正明（産業連携担当），戸井武司（広告担当））において、賛助会員、広告の増加策等会勢の拡大につながる諸策を実施し、財務の安定にむけた活動を行った。

(2) 賛助会員入会のメリットの整理・追加を行い、入会の勧誘を行った。また、研究発表会ポスターセッションの空きコマを有効に活用するため、賛助会員にポスター展示の希望を募り、実施した。

(3) 2019年春季研究発表会において、当学会賛助会員と主に博士後期課程在学の学生会員を対象として情報交換を目的とする交流会を実施した。

1 6. 寄付制度と学会活動活性化

2019年度会費の請求に併せて名誉会員、終身会員、正会員にご寄付を募った。なお、拠出寄付金は、学会活性化積立資産として積み立て、学会活性化に関する事業に支出した。2019年度

は、4件の活動特別支援金の申請があったが、2020年3月の春季研究発表会が中止となり、実施は2件であった。

17. 通常総会の開催

第53回通常総会は、2019年5月24日、全国家電会館において開催した。なお、出席者は、122名(うち議決権行使書の提出による出席80名)であった。

18. 理事会、役員会並びに委員会活動

(1) 理事会

2019年度理事会は、2019年8月を除く毎月開催したほか理事の交代期の5月には2回開催し、計12回開催した。

(2) 役員会

2019年度役員会は、2019年8月を除く毎月、計11回開催した。

(3) 企画委員会

2019年度企画委員会(坂本 慎一委員長)は、2019年8月を除く毎月、計11回開催した。

(4) 編集委員会

2019年度編集委員会(菅木 禎史委員長)は、2019年5月、6月、7月、9月、11月、2020年1月及び3月の計7回開催した。

(5) 学術委員会

2019年度学術委員会(荒井 隆行委員長)は、2019年6月、9月、11月、2020年3月の4回開催した。

(6) 研究発表会準備委員会

2019年度研究発表会準備委員会(岩谷 幸雄委員長)は、2019年6月、9月、11月の3回開催した。なお、研究発表会プログラム編成委員会は、6月、11月の2回開催した。

(7) 広報・電子化委員会

2019年度広報・電子化委員会(荒木 章子委員長)は、2019年9月、2020年3月の2回開催した。

(9) 事業委員会

2019年度事業委員会(西村 明委員長)は、2019年12月に開催した。

(10) 出版委員会

2019年度出版委員会(大川 茂樹委員長)は、2019年9月に開催した。

(11) 本部支部連絡会

2019年度本部支部連絡は、2019年9月に開催した。

19. 他学協会等からの共催等依頼

区分	件数	摘要
共催	2件	(一社)日本機械学会ほか
協賛	39件	(公社)日本騒音制御工学会ほか
後援	4件	(一社)日本建築学会ほか
計	45件	

20. 支部所属会員

(1) 関西支部

会員種別	2019年度			参 考	
	2019. 4. 1 現在数(A)	2020. 3. 31 現在数(B)	年度内の増減 (B-A)	2019. 3. 31 現在数(C)	前年度末との 対比(B-C)
名誉会員	5	4	△1	5	△1
終身会員	25	23	△2	23	0
正会員	451	440	△11	451	△11
学生会員	171	141	△30	172	△31
(合計)	652	608	△44	651	△43

(2) 東北支部

会員種別	2019年度			参 考	
	2019. 4. 1 現在数(A)	2020. 3. 31 現在数(B)	年度内の増減 (B-A)	2019. 3. 31 現在数(C)	前年度末との 対比(B-C)
名誉会員	3	4	1	3	1
終身会員	16	16	0	15	1
正会員	131	117	△14	130	△13
学生会員	61	68	7	63	5
(合計)	211	205	△6	211	△6

(3) 東海支部

会員種別	2019年度			参 考	
	2019. 4. 1 現在数(A)	2020. 3. 31 現在数(B)	年度内の増減 (B-A)	2019. 3. 31 現在数(C)	前年度末との 対比(B-C)
名誉会員	1	0	△1	1	△1
終身会員	20	20	0	17	3
正会員	260	266	6	258	8
学生会員	60	65	5	62	3
(合計)	341	351	10	338	13

(4) 九州支部

会員種別	2019年度			参 考	
	2019. 4. 1 現在数(A)	2020. 3. 31 現在数(B)	年度内の増減 (B-A)	2019. 3. 31 現在数(C)	前年度末との 対比(B-C)
名誉会員	0	0	0	0	0
終身会員	8	8	0	8	0
正会員	153	153	0	152	1
学生会員	77	67	△10	78	△11
(合計)	238	228	△10	238	△10

(5) 北陸支部

会員種別	2019年度			参 考	
	2019. 4. 1 現在数(A)	2020. 3. 31 現在数(B)	年度内の増減 (B-A)	2019. 3. 31 現在数(C)	前年度末との 対比(B-C)
名誉会員	0	0	0	0	0
終身会員	1	1	0	0	1
正会員	73	70	△3	73	△3
学生会員	66	71	5	67	4
(合計)	140	142	2	140	2

2 1. 支部の事業

(1) 関西支部

ア. 支部役員会

支部役員会は、2019年4月、5月、11月(2回)、2019年3月(オンライン会議)の5回開催。

イ. 総会・研究会・支部研究発表会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要 (敬称略)
支部総会	2019. 4. 18	脳情報通信融合研究センター(CiNet)	2018年度事業実施・決算報告 2019年度事業計画・予算審議 出席者 181名(うち委任状 143通) /定足数 96名
講演会・見学会	2019. 4. 18	脳情報通信融合研究センター(CiNet)	NICT CiNet センター長 柳田 敏雄氏のご講演と施設見学 参加者 38名
音楽音響研究会	2019. 6. 22	龍谷大学梅田キャンパス	発表 4件 参加者 17名
騒音・振動研究会	2019. 9. 24	関西大学千里山キャンパス	発表 7件 参加者 20名
秋季見学会	2019. 10. 16	新明和工業甲南工場	甲南工場技術者の方々による 講演と施設見学 参加者 22名
第 22 回若手研究者交流研究発表会	2019. 12. 1	大阪産業大学東キャンパス	ポスターセッション, 懇親会 ポスター発表 39件, 企業展示 3件 参加者 111名
河原英紀先生によるマスタークラス	2019. 12. 1	京都市立芸術大学	参加者 14名
建築音響研究会	2020. 1. 14	関西大学千里山キャンパス	発表 5件 参加者 23名
超音波研究会	2020. 1. 22 ～ 23	同志社大学	発表 29件(単独 15件) 参加者 66名(2日間合計)
電気音響研究会	2020. 1. 22 ～ 23	同志社大学	発表 18件(単独 4件) 参加者 66名(2日間合計)

(2) 東北支部

ア. 支部役員会

支部役員会は東北大学工学部において、2020年2月に開催。

イ. 総会・研究会・連合大会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要 (敬称略)
支部総会	2019. 4. 24	東北大学工学部	
第 1253 回学術講演会	2019. 4. 24	東北大学工学部	「超音波と光が共創する新しいイメージング技術」 講師 西條 芳文氏(東北大学) 来聴者 150名
聴覚／電気音響研究会	2019. 8. 8 ～ 9	東北大学電気通信研究所	
電気関係学会東北支部連合大会	2019. 8. 22 ～ 23	秋田大学手形キャンパス	発表件数 287件, セッション数 50, 参加者 193名, 広告掲載企業 37社, カタログ展示企業 13社, 賛助企業 7社 特別講演「University 4.0・Society5.0 実現の大阪大学の挑

			戦] 講師：西尾 章治郎 氏(大阪大学総長)
超音波研究会	2019. 9. 25	東北大学青葉山キャンパス	
東北大学電気通信研究所一般公開 2019 講演(後援)	2019. 10. 12 ~ 13	東北大学電気通信研究所	台風 19 号のため中止
東北地区音響学研究会	2019. 11. 30	福島大学	発表件数 18 件 参加者 41 名
平成 2020 年東北地区若手研究者研究発表会(共催)	2020. 2. 29	仙台高等専門学校名取キャンパス	

ウ. 若手研究者優秀論文賞

東北支部電気関係学会支部連合大会、東北地区若手研究発表会及び東北地区音響学研究会から、所定の手続きにより審査を行った。その結果、電気関係学会東北支部連合大会から2名、若手研究者研究発表会から2名及び東北地区音響学研究会から1名の受賞者を決定した。

(3) 東 海 支 部

ア. 支部役員会

支部役員会は、2019年4月、2019年12月に開催。

イ. 総会・研究会・連合大会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要 (敬称略)
2019 年度支部総会・講演会	2019. 4. 1	ウインクあいち	出席者 13 名 講演 1 件 「大学発ベンチャーによる音声合成技術の実用化」 講師：大浦 圭一郎 氏(名古屋工業大学)
騒音・振動研究会(後援)	2019. 5. 9	名城大学天白キャンパス	講演件数 6 件
第 22 回東海地区音声関連研究室修士論文中間発表会	2019. 8. 3	静岡大学浜松キャンパス	講演件数 53 件 参加者 142 名
電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会(後援)	2019. 9. 9 ~ 10	大同大学滝春キャンパス	特別講演 1 件, 一般講演 460 件 参加者 889 名 音響学会関連発表 14 件
2019 年度支部見学会	2019. 9. 28	ヤマハ(株)イノベーション ジョンロード	参加者 24 名
音楽音響研究会(後援)	2019. 10. 25 ~ 26	ヤマハ(株)	講演件数 22 件
2019 年度技術講習会	2019. 11. 1	名古屋工業大学	参加者 23 名
超音波研究会(後援)	2019. 11. 11	静岡大学浜松キャンパス	講演件数 7 件 参加者 31 名
建築音響, 騒音・振動関連若手研究発表会	2019. 12. 6	名城大学天白キャンパス	講演 6 件
東海地区音声関連研究室卒業論文(中間)発表会(後援)	2019. 12. 15	名城大学ナゴヤドーム前キャンパス	講演件数 52 件 参加者 105 名
2019 年度優秀発表表彰式	2019. 12. 16	ホテルルブラ王山	出席者 16 名

ウ. 学生会員発表奨励制度

東海支部が主催又は共催した修士論文中間発表会、電気関係学会支部連合大会において優

秀な講演を行った学生会員を対象として表彰した。今年は発表奨励 11 名，優秀発表賞 6 名であった。

(4) 九州支部

ア. 支部役員会

支部役員会は，2020 年 3 月に開催(オンライン会議)。

イ. 総会・研究会・連合大会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要 (敬称略)
建築音響研究会	2019. 6. 28	福岡大学	共催
サマーキャンプ(合同技術研究会)	2019. 8. 27 ～ 28	九重共同研修所	参加者 正会員 8 名，学生・TA 院生 5 名 特別講義「ポストデジタル以降の音を生み出す機構」城 一裕先生(九州大学)
電気・情報関係学会九州支部連合大会	2019. 9. 27 ～ 28	九州工業大学戸畑キャンパス	共催 講演件数 503 件，うち音響関係 5 件
音声研究会	2019. 10. 26 ～ 27	鹿児島・第一工業大学	共催(福祉情報工学研究会)
学生のための研究発表会	2019. 11. 16	九州大学大橋キャンパス	主催 発表件数 24 件 参加者 57 名
騒音・振動研究会	2019. 12. 11	九州大学大橋キャンパス	共催
電気音響研究会	2019. 12. 12 ～ 13	九州工業大学戸畑キャンパス	共催
聴覚研究会	2019. 12. 14 ～ 15	九州大学大橋キャンパス	共催
音楽音響研究会	2020. 1. 11	九州大学大橋キャンパス	共催
聴覚研究会	2020. 2. 15 ～ 16	那覇市 IT 創造館	共催
電気音響／音声研究会	2020. 3. 2 ～ 3		共催／開催中止
支部総会	2020. 3. 28	オンライン会議(skype)	主催

ウ. 学生表彰

九州支部が主催又は共催した研究発表会，研究会等における学生の発表を対象として応募者を募り特に優れたものを表彰した。2019 年度の表彰者は，4 名であった。なお，新型コロナウイルスの影響により表彰式は中止した。

(5) 北陸支部

ア. 支部役員会

支部役員会は，2019 年 4 月，7 月，2020 年 3 月に開催。

イ. 総会・研究会・連合大会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要 (敬称略)
支部総会	2019. 4. 13	金沢大学サテライト・プラザ	平成 30 年度事業報告・決算報告 令和元年度事業計画・予算 出席者 43 名 (うち委任状提出者 18 名)
口笛ワークショップ 星空くちぶえコンサート	2019. 6. 9	セーレンプラネット	出席者 58 名

電気関係学会北陸支部 連合大会	2019. 8. 31 9. 1	石川工業高等専門学校	音波・音響関係部門 講演19件(うち招待講演1件) 学生優秀論文発表賞7件
電気音響／音楽音響研究会	2019. 11. 21 ～ 22	金沢工業大学扇が丘キャンパス	講演23件
研究会「危険を伝える音声と放送」 騒音・振動研究会	2019. 11. 28	金沢工業大学扇が丘キャンパス	騒音・振動研究会との共催 講演6件+デモ3件 出席者19名
音声研究会	2020. 1. 28 ～ 29	高岡生涯学習センター	講演11件(うち招待講演2件)
保育と音環境シンポジウム	2020. 2. 2	しいのき迎賓館(金沢市)	講演3件 出席者16名
北陸地区学生による研究発表会	2020. 3. 8	石川工業高等専門学校	COVID-19の影響により中止

事業報告書の附属明細書

特に記載すべき重要な事項はありません。